



平成 24 年度 第 21 回全国水産・海洋系高等学校生徒研究発表大会

発表題「里海づくり第Ⅱ章～アマモで拓く世界遺産への道」

奨励賞を受賞

～「ことばの力」トライアル～

【3年2組海洋技術コース 宮本 沙紀】

全国大会を終えた今、悔いの残る結果だったと改めて感じています。それは、自分達の研究活動や発表に自信があったからです。私達が研究に取り組んできて約1年8ヶ月が経ちました。先輩方の研究を受け継ぎ、研究を重ねて行く上で失敗や行き詰まりなど多くの問題がありましたが、新しいアイデアを生み出し、阿蘇海をキレイにする里海づくりへの希望が見えたなかで、発表に臨みました。私達はとてもいい発表ができたと思っていましたが、他の水産・海洋高校の研究を聞いて、研究のスタート地点に立っただけなのかもしれないと感じました。しかし、私達の研究は全て自分たちで取り組み、理解を重ねたからこそ質疑応答ができます。そのレベルは全国でも通用する可能性

があると希望も持てました。今後、私達は研究活動を後輩へと引き継ぎます。研究活動だけでなく全国大会で最優秀賞の夢も託したいと思います。校長先生をはじめ、たくさんの先生方に支えられ、ここまで努力できました。多くの方に感謝し、私自身、これからも成長し続けたいと思います。

【3年2組海洋技術コース 長谷川 浩平】

審査結果を聞いて悔しかった。実際に発表してみると、自分たちの発表は、質疑応答や発表態度においても全国で十分通用するものだと思え、発表内容に手応えを感じていた。しかし、日本海南部地区予選では見られなかった、音楽を使った発表などユニークな方法があり、「こんな発表の方法があるのか」「この発表は聞いている側も引き込まれてしまう」と、学ぶところが多くあった。全国大会という大きな舞台で発表することは、自分にとって初めての経験であり、もう二度とないかもしれない。しかし、この経験を就職先の仕事の中で生かしたい。そして、今回の発表で学んだことを後輩に伝え、より良い発表になるようにしてほしい。自分たちが叶わなかった全国で、是非とも最優秀賞を獲得してほしいです。

【3年2組海洋技術コース 壺内 章矢】

いままでとは全く違う、全国という舞台で発表を行い、他校との違いに驚かされました。1枚のスライドごとに秒単位で発表時間を設定している学校や、音楽に合わせた発表など、京都海洋は「魅せる」部分で圧倒的に練習不足でした。夏休み前から発表の準備をしてきましたが、13分間で、研究結果や取組への思いを伝えるのは難しく、途中で行き詰まり、嫌気がさすこともありました。そんな時、先生方から助言や叱咤激励で一つ一つ壁を乗り越えていきました。夜遅くまで学校で取り組み、帰宅が21時を過ぎることもありましたが、今思えばとても充実した日々を過ごすことができました。この研究発表を通じて、先生方や仲間を支えられていることを改めて感じました。上位入賞はできませんでしたが、この達成感と充実感は何事にもかえられない経験でした。

第21回全国水産・海洋系高等学校生徒研究発表大会



宮本沙紀さん 長谷川浩平君 壺内章矢君